



大震災から10年・交流の記憶①

よさこいを通じて楽しさや交流を明日へとつないでいきたい

夜の森の桜のトンネルの下で行われる富岡町桜まつりの「さくらYOSAKOI」。2001年からスタートし、県内外から多いときは50のよさこいチームが出場していた。伊藤さんは桜まつりの実行委員を務め、裏方として「さくらYOSAKOI」を支えており、震災で中止となった2011年の桜まつりの実行委員長でもあった。

震災以降、伊藤さんはいわき市に避難し、富岡の人たちも各地に散らばった。よさこいのつながりを無くしたくないと、多くの声が伊藤さんに寄せられ、かつて富岡町にあったよさこいチームのメンバーを中心に2012年、チーム富岡さくらYOSAKOIを結成。それまでは裏方だった伊藤さん自身も踊り手としてよさこいを踊るようになった。同年12月、いわき駅前で行われた「いわき光のさくらまつり」の主催者から声がかかり企画から参加、いわきでよさこいステージを作り上げた。

いつしか「チーム富岡さくらYOSAKOI」の踊りに魅了され、いわきの人たちも多くチームに参加するようになり、今ではいわきのメンバーが3分の1を占める。2019年にチーム名をさくらYOSAKOI「天花(てんか)」に変更、毎週練習を欠かさず行い鍛錬を重ねている。

いわきで生まれた繋がりが、富岡町で花開く

また伊藤さんはいわきで知り合った人たちの「私たちもよさこいを踊ってみたい」との声を受け、いわきや双葉郡などの人たちが気軽によさこいを踊ることができるチーム「よさこい浜さこい」を2017年に立ち上げた。「よさこい 浜さこい」の初舞台は翌年震災後初めて開催された2018年の富岡町桜まつり。いわきで生まれた繋がりが、富岡町の夜の森で花を咲かせた瞬間だった。

「富岡を背負って」と力むよりも、新しい富岡を楽しみながら、わくわく出来るものを作っていききたい。そしてよさこいの楽しさを多くの人に伝えたい。」と伊藤さんは語る。

伊藤さんはこれからも「よさこい人」として、よさこいで人々の絆をつなぐ活動を続けていく。



さくら YOSAKOI 天花 代表
伊藤 孝さん

富岡町出身。2011年にいわき市に避難。2012年「チーム富岡さくらYOSAKOI」結成、代表となる。現在は「さくらYOSAKOI 天花」代表及び「よさこい 浜さこい」プロデューサー。震災後よさこいを愛する仲間と共に、浜通りを中心とした様々なイベントに出場するなど、現在も精力的に活動を続ける。